

日本災害情報学会・日本災害情報学会合同大会 公開シンポジウム
「中越大震災と復興情報」・「中越から東日本大震災へ」

■日時:2014年10月25日(土) 13:30~17:00

■場所:アオーレ長岡・アリーナ(新潟県長岡市)

●シンポジウムテーマ 「新潟県中越地震から10年」

2004年、新潟県中越地域に大きな被害をもたらした中越大震災は、我が国の70パーセントを占める中山間地で発生した直下型地震である。震災から10年、この間、被災者は新しい中山間地の創造を目指して積極的に復興に取り組んできた。

この復興を通じて被災地は何を学んだのか、そして東日本大震災に何を伝えようとしているのか、その原点を見つめ直す機会とするという趣旨で学会大会の中で公開シンポが開催された。

シンポジウムは2部構成で、1部は「情報」、2部は「復興」をテーマとした。

当日は、一般市民も含め約400人が参加した。

【シンポジウムプログラム】

○開会挨拶

◆布村 明彦 (日本災害情報学会会長)

○パネルディスカッション I

◆テーマ:「中越大震災と復興情報 ―震災時における情報伝達の重要性―」

○パネリスト

- ・長島 忠美 (衆議院議員)
- ・泉田 裕彦 (新潟県知事)
- ・田中 淳 (東京大学大学院総合防災情報研究センター長/日本災害情報学会副会長)

○コーディネーター

- ・山崎 登 (NHK解説主幹/日本災害情報学会副会長)

○主な討論内容

1. 災害発生時における情報の課題
2. 災害からの復興における情報の課題
3. 中越大震災の教訓は東日本大震で活かされたのか
4. 今後の日本の防災に向けて

○パネルディスカッション II

◆テーマ:「中越から東日本大震災へー持続可能な復興を目指してー」

○パネリスト

- ・森 民夫 (新潟県長岡市長)
- ・中林 一樹 (明治大学大学院特任教授/日本災害復興学会会長)
- ・木村 拓郎 (減災・復興支援機構/日本災害情報学会理事/やまこし復興交流館長)

○コーディネーター

- ・渡辺 隆 (新潟日報社常務)

○主な討論内容

1. 中越大震災発生と同時期、新潟県では平成の大合併が進められていた。合併は、中越大震災からの復旧・復興の局面でどう作用したのか。
2. 中越大震災の復興プロセスからの産物として「新潟モデル」「中越モデル」が生み出されている。中越大震災からの復興で、どこに見るべきものがあったのか。
3. 東日本大震災から3年が経過した。今、中越大震災を体験した被災地から伝えるべきことは何か。

○閉会挨拶

◆山中 茂樹 (関西学院災害復興制度研究所教授/日本災害復興学会副会長)

(木村拓郎 減災復興支援機構

／第16回大会実行委員会)

